

# 北海道浮魚ニュース

平成 14(2002)年度 19号 (通巻 No.139)

2002年 9月 27日

北海道立水産試験場

## 第2回太平洋イカ長期漁況予報発表される

9月26日に平成14年度第2回太平洋イカ長期漁況予報文が水産庁より発表されました。

対象魚種：スルメイカ

予測期間：2002年10～12月

予測海域：常磐以北太平洋海域

対象漁業：イカ釣り、底曳き、定置網

(魚体の大きさは外套長で表示)

### 1. 常磐～三陸海域(いか釣り、底曳き、定置網)

(1) 来遊量：2001年を下回る。

(2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場が形成される。

(3) 魚体：11月は25～27cmが主体。

### 2. 大畑～道南海域(いか釣り、定置網)

(1) 来遊量：2001年を下回る。

(2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場が形成される。

(3) 魚体：11月は25～27cmが主体。

### 3. 北海道東部～根室海峡周辺海域(いか釣り、定置網)

(1) 来遊量：北海道東部は2001年を下回る。根室海峡は2001年を大きく下回る。

(2) 漁期・漁場：漁期は10～11月が中心で、2001年より終漁は早い。

(3) 魚体：10月は23～26cmが主体。

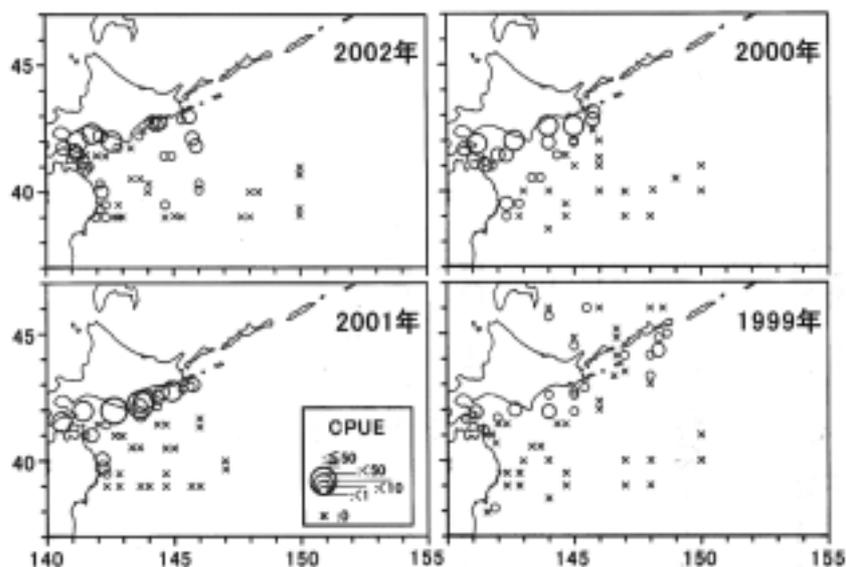


図1 漁場一斉調査におけるスルメイカの分布状況  
単位 CPUE (釣機1台1時間あたりの漁獲尾数)  
平成14年度第2回太平洋イカ長期漁況予報資料より  
(独立行政法人水産総合研究センター北海道区水産研究所)

## オホーツク海スルメイカ情報・・・今年の来遊量は低水準

平成 14 年度第 2 回スルメイカ漁況予報発表とともにオホーツク海スルメイカ漁況に関する情報をお知らせします。

羅臼の 7～9 月の、イカ釣りと定置網をあわせたスルメイカ漁獲量は、10～12 月のオホーツク海漁獲量（稚内市宗谷～ウトロ、羅臼までの合計漁獲量）と関係があります（図 2）。7～9 月に羅臼でスルメイカがたくさん獲れる年は、10 月以降オホーツク海でもたくさん獲れます。

釧路のイカ釣りによるスルメイカ漁獲量は、9 月 20 日現在で昨年を下回っており（表 1）、CPUE も同様に昨年を下回っています。羅臼のイカ釣りによる 9 月 20 日現在の漁獲量も昨年を大きく下回っており、CPUE も大きく下回っています。

長期予報では、根室海峡周辺の水温が低温傾向で推移したため道東海域からオホーツク海域へ回遊したスルメイカの資源は昨年を下回るとの見通しになっています。

以上をふまえて、図 2 の関係から今年のオホーツク海（稚内市宗谷～ウトロ、羅臼を含む）のスルメイカ来遊量を推測すると、昨年を大きく下回り、1998～1999 年並の低水準になると 思われます。

表 1 9 月 20 日現在におけるスルメイカ漁獲量と CPUE\*

	釧路港		羅臼港	
	漁獲量(トン)	CPUE*	漁獲量(トン)	CPUE*
2000	1,607	1.6	810	3.6
2001	1,278	2.1	926	3.7
2002	592	1.2	11	0.8

\* CPUE: 1 日 1 隻あたりの漁獲量 (トン)

稚内水試調査船北洋丸が 9 月 9～12 日に行ったサンマ漁期前調査（浮魚ニュース 18 号参照）では、ウトロ沖の観測点で小型のスルメイカが数尾目視されたのみで、他は皆無でした。

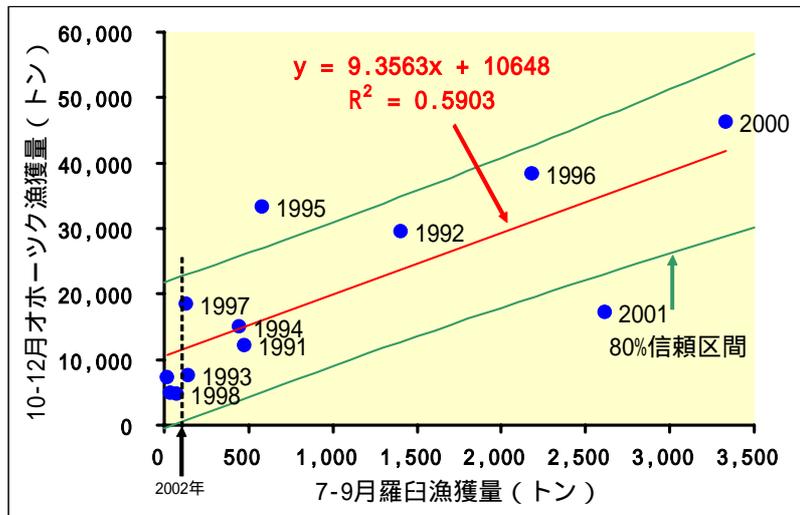


図 2 7-9 月の羅臼漁獲量と 10-12 月オホーツク海漁獲量 1990～2000 年  
オホーツク：（稚内市宗谷～ウトロ、羅臼）

表 2 10～12 月におけるスルメイカ漁獲量（単位：トン）

	オホーツク海			
	道南・大畑	道東太平洋	根室海峡	稚内市宗谷～ウトロ
1991	11,387	7,238	9,705	2,424
1992	31,855	6,319	18,474	11,079
1993	20,566	57	6,295	1,287
1994	19,293	2,203	12,064	2,956
1995	28,663	1,475	19,568	13,334
1996	29,964	2,249	18,954	20,813
1997	35,725	3,445	12,349	6,146
1998	13,598	1,935	3,929	797
1999	7,995	410	3,789	3,519
2000	22,469	1,349	31,212	14,878
2001	21,082	1,955	13,596	3,610

（文責：釧路水産試験場 資源管理部、TEL:0154-23-6222、FAX:0154-23-6225）